

『真理がもたらす自由』ヨハネ8:31-36

8:31 イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。

8:32 また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

8:33 そこで、彼らはイエスに言った、「わたしたちはアブラハムの子孫であって、人の奴隷になったことなどは、一度もない。どうして、あなたがたに自由を得させるであろうと、言われるのか」。

8:34 イエスは彼らに答えられた、「よくよくあなたがたに言うておく。すべて罪を犯す者は罪の奴隷である。

8:35 そして、奴隷はいつまでも家にいる者ではない。しかし、子はいつまでもいる。

8:36 だから、もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである。

●序論

私たちは比較的自由的な国の中に生きています。

今日、イエスさまはそんな私たちにも問うているのです。ほんとうにあなたたちは自由を味わっているだろうか…という風に。

私たちのほとんどが、まず間違いなく、今まで奴隷になったことはありません。奴隷という制度自体も、ずっと昔の事柄のように思います。そしてもし問われれば、同じように答えたかもしれません。

それに対して、イエスさまはこうお答えになったのです。

8:34 イエスは彼らに答えられた、「よくよくあなたがたに言うておく。すべて罪を犯す者は罪の奴隷である。

そしてさらに、

8:36 だから、もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである。

◆結論【（キリストの）真理が（わたしたちに）もたらす（罪からの）自由がある！】

●序論

I. キリストを知る

:32…そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

大学や図書館で「真理があなたがたを自由にする」と掲げる場所を見たことがある。

では、聖書はどういう意味でこの言葉を語るのでしょうか。

それは、キリストの言葉を聞き、その御言葉の深みにとどまり、キリストに従い、キリストご自身との信頼関係を深め、キリストの思いの中に浸され、キリストを思う者となる、ということです。

その中で、何者にも損なわれることのない愛と信頼に生きる喜び、慰め、祝福を経験するようになる。それが、真理を知ること、そしてそこで得る自由です。

「真理を知る」。それはまさに、わたしたちのために十字架を負われ死なれたイエス・キリストを知ること、そして神を知ることです。

なぜ、神のひとり子がそれほどまでにしてくださるのか、目で、耳で、心で、霊で追い求めて、感じ、経験し、ここに本物がある。本当の愛があると見いだしてそこに生きることなのです。

ただの知識を超えた、人が本来、神さまの愛ゆえの満足できる者となる、というありさまを知ることです。

日本語題で「静まって知れ」still という賛美の中にこんな歌詞があります。

キリストの中に憩い、信頼と 主の力 知る
いかずち 鳴り渡る中 主とともに羽ばたく
わが父よ 王なる神 静まり あなたを知る。

すべてはキリストの中に憩うという、ある意味休息にも似た、”より頼む”ありさまのなかで、「知る」ように導かれていく、それが真理を知ることです。

詩篇46:10「静まって、わたしこそ神であることを知れ。わたしはもろもろこの呼びかけの言葉が語られる背景には、人の争いがあり悩みがあり、苦しみがある。そういう中で、すべての武器を捨て、「まず静まって神を知れ」と語られているのです。

この言葉「神を知ること」…それで何の解決になる、何の腹の足しになる…という、人の声が反発として聞こえてくることがあります。わたしたちも、日常でそういう声をたくさん聴きながら、染まりながら生きているのがこの世の現実です。

でも、それでもわたしたちは、静まって、すべてを手ばなして、ただ神さまに耳を傾けてキリストの十字架を仰ぐのです。

キリストは万軍の主でありながら、その力を捨ててあの十字架にかけられ、わたしたちのための罪・過ちの呪いを受けてくださり、揺るがない愛をわたしたちに示されたのです。ここに、何ものにも揺るがされない本物の愛がある

神はこの方をよみがえらせ、死と呪いからの勝利者として立て、信じて受け取る者を救う福音を立てられてのです。

そうして、今日イエスさまの言葉を通して、私たちは招かれています。

:31-32「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

II. 神さま始まりの自由を知る。

ヨハネ8:36 だから、もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである。

「わたしたちはアブラハムの子孫であって、人の奴隷になったことなどは、一度もない。」と主張する人々に対して語られた言葉です。

私たちの住んでいる日本では、「自由」が保証されています。

しかし、「何をしてもよい自由」が、しばしば「たくさんの物事の中から、何をすべきかわからない」「大切なことが見えない」「自由であるからこそ、どうあるべき

「わからない不安」というものが生まれてくるのです。

「神さまなき自由」という中では、本当の自信や確信、安心がない…それが現実です。
 だから、ルール作りが叫ばれます。ルールで制限すること、決まり事を作ってお互いの不利益や損失が防げるように、事細かに規定が作られます。
 ただ、残念なことにその中で、人はどんどん不自由な存在となって行くのです。

イエス・キリストは、罪を犯すものは「罪の奴隷」と語りました。
 それは「神さまに背を向けて歩むもの」は、この世の規定（律法）の奴隷になって行くという道をたどるものでもあります。

聖書は、「本物の自由」を得るために、神がイエス・キリストをくださり、私たちに自由を与えてくださったことを主張します。

それはすなわち、わたしたちのどんな痛みもあやまちもすべて覆い包んで受け入れてくださる神さまの愛が、わたしたちを自由にするということです。

すなわち私たちが、あやまちを犯す、また間違いを犯しやすいものである、神さまに背を向け、神さまから離れていたことを知って、それを認めて、ただイエス・キリストがそんな私たちを許すために、十字架に身代わりとなってかかり死んでくださったことを受け入れるということです。

こんな、罪を、あやまちを、痛みを、神さまはすべてキリストの十字架の犠牲のゆえに許して、受け入れて、『そのままでいいんだ』と私たちを迎え入れてくださっている。それこそが、神さまの側からくださる一方的な恵みであり、それをただ信じるだけで、その中で生きることができる。ここに神さまがくださる自由があるのです。

Ⅲ. そこから始まる生きざまを知る

この8章の始まりは、姦淫の現場で捕まえられた女性がイエスさまの前に引きずり出されてきた記事でした。

彼女を赦し解放したところのイエスさまの対話を思い起こしてください。

8:10 そこでイエスは身を起して女に言われた、「女よ、みんなはどこにいるか。あなたを罰する者はなかったのか」。

8:11 女は言った、「主よ、だれもございません」。イエスは言われた、「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」。

ここに、イエスさまの、「本当に自由な者になるのである」という言葉が響きます。
 これはイエス・キリストの十字架の死と復活を通して与えられる罪の赦しと永遠のいのちの約束を信じて生きるクリスチャンに語られたものです。

そこで経験する自由は、人の努力によって得る自由ではなく、神さまの子どもとなって、神さまからいただく自由です。

それはイエスさまが指摘していた「罪を犯すものは罪の奴隷」という状態からの赦しと

解放なのです。

”神さま無し”が、自分には都合がいいという生きざまを、イエスさまは、あの放蕩息子のたとえでお話したことがあります。

父から離れて、自分勝手に、自分の思うとおりに生きることが自由だと錯覚した息子は、その果てに自分の思っていた自由の結末を知りました。

そして「我に返って」、父のもとに帰ろうと、立ち上がったのです。

この物語のクライマックスに、わたしたちが注目すべきは父が彼をずっと待っていたという真実だったことを思い出してください。

15:20 (放蕩息子は、) そこで立って、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。父は待っていた。そしてボロボロになった、ズタボロになった彼のそのありのままを迎えて喜び、その傷も苦しみもその愛で包んで迎えてくださったのです。

この愛の中で癒され、回復されていく、実は、ここにこそ「あなたがたは本当に自由な者となる」と言われたイエスさまの言葉の真実が響きます。

さいごに)

かつて神さまなき自由を求めて、放蕩したわたしもまた回復されました。

そこにあるのは、御言葉の真実です。

8:36 だから、もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである。

今も、わたしたちの周囲には、この神の愛から引き離そうとする状況が展開しています。またキリストの愛をゆがめようとする惑わしが働きます。

そんなわたしたちにとって大切なのは、わたしたちの心をどこに置き何で満たすか。

その答えは、最初に語られた御言葉の通りです。

8:31-32 イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

この御言葉の裏付けは、すでにあのキリストの十字架ではっきりしています。御言葉に立ち、十字架の真実に立ち、神の愛に立って、お互いを励まし合いこの時代をキリストの愛、真理を掲げて生き抜く者となりましょう！